

新型コロナウイルスワクチンの大学拠点接種についての学長メッセージ

関西学院大学
学長 村田 治

関西学院大学の学生の皆さん、夏休みはどのように過ごされたでしょうか。兵庫、大阪に緊急事態宣言が出されたことあり、多くの時間を自宅で過ごされたことと拝察します。関西圏では新型コロナウイルスデルタ株が猛威を振るっている最中にあります。

その最中に、本学において8月23日より新型コロナウイルスワクチンの大学拠点接種が始まりました。兵庫医科大学、上ヶ原病院のご協力の下、本学の学生・教職員を主な対象者とし、24600人のワクチンの接種を予定しております。

現在、感染が拡大しています新型コロナウイルスのデルタ株は昨年感染拡大した従来株に比べて感染力が1.87倍とも言われています。また、アメリカ疾病対策センターが1人のデルタ株感染者が免疫のない人に何人に感染させる能力があるかを示す「基本再生産数」を試算したところ、従来株の約3倍の5~9.5人と計算され、水ぼうそう同等の感染力を持つと報告されています。さらに、従来株では若者に感染しても無症状や軽症で済んでいましたが、デルタ株は大学生などの若者も重症化させ、軽症であっても後遺症が残ることも明らかになっています。実際、基礎疾患のない若者も亡くなってもいます。

自分自身の命と安全を守るためにも、またご家族や大切な人の命を守るためにも、是非、ワクチンの接種をお勧めします。もちろん、ワクチンを接種するかどうかは個人の自由意思であり、本学の大学拠点接種も希望者の申し込み制です。また、ワクチンを接種したからといって、完全に感染から免れるわけではありません。ワクチン接種をしても感染する場合があります。しかしながら、アメリカ疾病対策センターも指摘していますように、感染したワクチン接種者のうち入院したのは1.2%にとどまり死亡者はなく、「重症化や死亡を防ぐにはワクチン接種が最も重要な戦略になる」と考えられます。

ワクチン接種後の副反応を心配されるかもしれません。特に、若い人ほど副反応が強い傾向にあるようです。感染による重症化と後遺症のリスク、また家族や大切な人への感染のリスク、これらと数日間の副反応のリスクのどちらを軽減すべきかよく考えてほしいと思います。クラブの公式試合などを控えてワクチン接種を避けたいと思うかもしれませんが、後遺症やクラブ員への感染拡大、あるいは自分自身が感染した場合のリスクをよく考えてほしいと思います。

もうすぐ、秋学期の授業が始まりますが、大学拠点接種での2回目のワクチン接種の時期は秋学期の授業期間中と重なります。接種当日の授業の欠席、副反応による授業の欠席に関しては、成績上不利にならないような配慮がなされます。この点をご安心ください。

繰り返し申し上げますが、自分自身の命と安全を守るためにも、またご家族や大切な人の命を守るためにも、是非、ワクチンの接種をお勧めします。ワクチンを接種するかどうかは個人の自由意思であり、様々な理由でワクチンを接種しない、あるいはできないとしても、本学における勉学上の不利益が生じることはありません。

最後になりますが、これまで感染防止に努められてきた学生の皆さんの努力に敬意を表するとともに、引き続き感染防止対策を行って頂きたいと考えています。

一日も早く、新型コロナウイルスの感染拡大が終息し、学生の皆さんが何の制約もないキャンパスライフを楽しめる日が来ることを心から願っております。